

## は し が き

言語センター長 君 羅 久 則

言語センター広報 *Language Studies* の第 11 号をお届けいたします。当言語センターも創設 11 周年を迎えたこととなります。この間に、教職員スタッフの充実、2 号館の創設など施設・設備面での拡充も実現し、平成 13 年 4 月からは新しいカリキュラムも実施に移されました。10 年の節目に一応の完成をみたこととなりますが、そんな折、本学大学評価委員会が実施した、平成 13 年度の外部評価は「本学の外国語教育」がテーマであり、言語センターが実施主体となり、様々な観点から言語センターの自己点検評価報告書を作成し、外部評価委員の方々に評価していただきました。おおむね高い評価が与えられたと考えますが、一方、いくつかの課題も指摘されています。今回の外部評価は、言語センターにとって自己総点検の好機会であると考え、また、完成は終焉を意味するのではなく、新たな目標に向かっての始まりであると考え、必要があると思われます。新しい制度を効果的に運用し、施設や設備を活用するために教職員スタッフが創意工夫と努力をつづける必要があり、絶えざる検証と改善の課題を与えられたこととなります。

言語センターが平成 5 年度から毎年開催しているネイティブ・スピーカーによる外国語会話の公開講座が、今年度は 2 年ぶりに中国語も加わって、4 講座が開講されました。春から初夏にかけて、外国人教師マーク・ホルスト氏による前期英会話講座、本学ロシア語の非常勤講師のアレクサンドル・スペヴァコフスキー氏によるロシア語会話講座、それに海外出張から帰国された裴崢教授による中国語会話講座、秋から初冬にかけてはブライアン・ペリー氏による後期英会話講座が実施されました。英会話講座を除いて受講者は減少する傾向にありますが、全講座とも熱心なりピータもあり、受講された方々には好評でした。

本学の教官と高校や中学校で教員をしている本学卒業生とで作る教職研究会の第 15 回大会が 12 月 9 日にマルチメディアホール 2 を会場にして開催されました。学内外の教官・教員、学生約 50 名が集い、本学名誉教授の永原和夫先生が「外国語教育—いまとむかし」と題して講演を行ったほか、研究発表とシンポジウムが行われ、盛会でした。

言語センターにとっては大変残念なことでありますが、個別言語部門英語系所属の平田洋子助手が平成 14 年 10 月 1 日付けで北海学園大学工学部助教授として移られました。平成 4 年 6 月に赴任されて 10 年間、言語センター助手として、特に数度にわたる施設・設備の拡充計画の実施には、多大の協力と貢献をされました。感謝申し上げます。今後とも本学の外国語教育にご協力いただければ幸いです。助手不在となりました 10 月 1 日から翌 15 年 2 月末日までの間、本学を 9 月に卒業したばかりの山本香織さんに事務補佐員として勤めていただきました。短い間でありましたが熱心にご協力いただきましたことを感謝いたします。なお、平成 15 年 4 月 1 日からは、新しい助手が赴任する予定となっています。

さて、言語センター所属の教官の海外出張と研修についてご報告します。応用言語部門所属の高井收教官は、平成 14 年 4 月 2 日から 8 日間に亘ってアメリカ合衆国ポートランド州立大学に研修に出掛けられ、さらに平成 14 年 8 月 7 日から 13 日間、平成 14 年 12 月 23 日から 16 日間、同大学にて研修されています。裴崢教官は平成 14 年 8 月 4 日から同 21 日までの 17 日間、中華人民

共和国北京師範大学等に研修に出掛けられました。高橋純教官は平成14年9月2日から8日間、フランス、ノルマンディのスリジラ・サール国際文化センターに出張されました。萩原正樹教官は平成14年8月19日から8月27日までの9日間、中華人民共和国西安大学および北京大学に海外研修され、また、外国人教師のマーク・ホルスト教官は平成14年8月29日から21日間、連合王国エジンバラ大学に海外研修され、副島美由紀教官は、平成15年1月29日から2月11日まで14日間に亘り、ドイツ、パサウ大学及びオランダ、ライデン大学に海外出張されました。大島稔教官は、平成14年3月21日から10カ月間に亘り、ロシア連邦カムチャツカ州、ロシア科学アカデミー極東支部での在外研究を終えて平成15年1月20日に帰国しました。同教官は、引き続き3月から約10カ月間、研修の予定となっています。

例年の通り、今年も学生の活躍で特記すべきことがありましたので、お知らせしておきます。難関で知られるDSH(ドイツの大学入学語学能力試験)に昨年に続いて2年連続で本学の学生が合格しましたし、札幌姉妹都市協会主催の第21回ドイツ語暗唱大会(2002年10月16日)で1名が上位(3位)に入賞し、第5回全国ドイツ語スピーチコンテスト(財団法人日独協会主催)で本選に出場を果たした学生がいます。また、フランス語では、北海道新聞社主催の第4回フランス語スピーチコンテストが11月17日に札幌国際交流プラザで開催され、本学学生が上位(2位)入賞を果たしました。ちなみにこの学生は交換留学生としてエクス＝マルセイユ第3大学に留学していました。また、英語では、TOEFL、TOEICで好成績を収めた学生も多数いますし、また、STEP(財団法人日本英語検定協会)の実用英語技能検定の1級合格者も出ております。これらは、現時点では、旧カリキュラムの必修20単位の遺産と言うべきかも知れません。しかし、今後も新カリキュラムでは、4年間を通じて、外国の言語や文化の学習チャンスが一層拡大されますので、更に深い異文化理解の教養を備え、広い視野を持った多くの学生が輩出することを期待したいと思います。